

【2025 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
心理学概論 (人間コミュニケーション学科 2025-)		必修	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
前川 真奈美	B304	manami.maekawa	火曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>コミュニケーションを理解するうえで大切な心理学の基礎知識を学ぶとともに、心理学に基づく対人援助の方法と実際について理解することを目的とする。</p> <p><概要>心理学の多彩な領域における基本的な理論や心理療法各論を概説する。本講義は遠隔授業だが、Forms を用いたアンケートやグループワークを行い、受講生同士の意見交換の場を設けながら理解を深める。</p>				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	オフィスアワーの他、講義中やリアクションペーパーを活用し、積極的に質問して理解を深めてほしい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料 (PDF ファイル) を配付する。				
参考書	心理学入門 ころを科学する 10 のアプローチ (ステップアップ心理学シリーズ) /編著: 板口典弘、相馬花恵/講談社/2017 年				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理学の諸分野の基本的な概念を理解し、体系的に説明できる。			HSU (2)	
②	心理学に基づく対人援助の方法と実際について理解し、体系的に説明できる。			HSU (2)、(3)	
③	本講義で習得した知識を自分の経験と結びつけ、日常的な現象を考察できる。			HSU (1)、(5)、(6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 心理学とはどのような学問か、心理学の歴史について学ぶ。	同時双方向型授業	<予習> 「学習内容等」欄に書かれたキーワードについてインターネット等で調べる。 <復習> これまでの自分の体験を振り返り、講義内容と合致する現象を見つける。 配布資料をもとに講義内容を整理し、リアクションペーパーを提出する。 確認テストに向けて復習する。		
2	感覚・知覚心理学:人はどのように世界をとらえているのかについて学ぶ。	同時双方向型授業			
3	学習心理学:行動が変化するしくみについて学ぶ。	同時双方向型授業			
4	認知心理学:記憶のメカニズムについて学ぶ。	同時双方向型授業			
5	感情・情動:感情・情動のしくみについて学ぶ。	同時双方向型授業			
6	欲求と動機づけ:「やる気」のしくみについて学ぶ。	同時双方向型授業			
7	パーソナリティ心理学:代表的なパーソナリティ理論について学ぶ。	同時双方向型授業			
8	心理的アセスメント 1:パーソナリティ検査について学ぶ。	同時双方向型授業			
9	心理的アセスメント 2:知能のとらえ方や知能検査について学ぶ。	同時双方向型授業			
10	発達心理学:発達を規定する要因について学ぶ。	同時双方向型授業			
11	社会心理学:他者の存在が人の態度や行動にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。	同時双方向型授業			
12	臨床心理学 1:精神分析、クライエント中心療法について学ぶ。	同時双方向型授業			
13	臨床心理学 2:認知行動療法 (行動的技法) について学ぶ。	同時双方向型授業			
14	臨床心理学 3:認知行動療法 (認知的技法) について学ぶ。	同時双方向型授業			
15	これまでの学習の総括を行う。	同時双方向型授業			
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。				

【2025 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		60	0	0	0	40	100	
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	15	65	
	思考・推論・創造する力	5	0	0	0	10	15	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	5	0	0	0	5	10	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。定期試験では、心理学の専門用語について問う選択問題と、講義で扱った心理学の知識をもとに自らの考えをまとめる論述問題を出題する。(60点満点)				Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	毎講義後に Teams 上でリアクションペーパーの提出を求める。講義内容に関する気づき、考察、疑問などが具体的に記述されるかを評価する。(全 15 回、各 2 点満点で計 30 点満点)				リアクションペーパー:講義中にフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④		第 2~14 回の講義後に、講義内容の理解度を測る確認テストを実施し評価する。(確認テストの総得点を 10 点満点に換算)				確認テスト:講義中に解説を行う。	
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	公認心理師資格を有し、2年の心理査定業務の経験がある。							
実践的授業の内容	専門性とこれまでの経験をもとに、受講生がイメージしやすい具体例や実践的な情報を交えながら授業を進める。							
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> Teams を用いた同時双方向型の遠隔授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。 「講義中のワークやアンケートに未回答」「教員からの指名時およびグループワークの際に無反応」などは授業不参加と同等とみなし、欠席・遅刻・早退のいずれかとして扱う(特別な事情の場合を除く)。 自らの考えを記述する課題(リアクションペーパー、筆記試験の論述問題等)において、生成 AI の出力結果を利用することを禁止する。これに反した場合は評価の対象外とする。 							